

このサイトについて（概要説明）

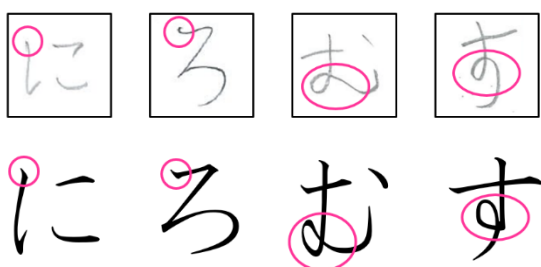
## 1. J-Learners' (フォント) について

このサイトには、文字練習のお手本の文字として「J-Learners' (フォント)」を使用しています。このフォントは、主にゼロ初級日本語学習者のひらがな・カタカナの練習用に作成したものです。

日本語学習者の書くひらがなやカタカナの中には、学習者のレベルに関わらず、間違い・判読不能とまでは言えなくても、読みにくいもの、日本語母語話者から見ると文字の形が不自然なものがよく見られます。いくつかの機関で日本語を教えている際、多くの学習者の書く文字を見て、そこにはいくつかの共通点（同じようなエラー・不自然さ）があることに気がつきました。共通点があるということは、エラーを引き起こす原因が重なっているということになります。そしてその原因の多くが「お手本の文字」にあることがわかりました。

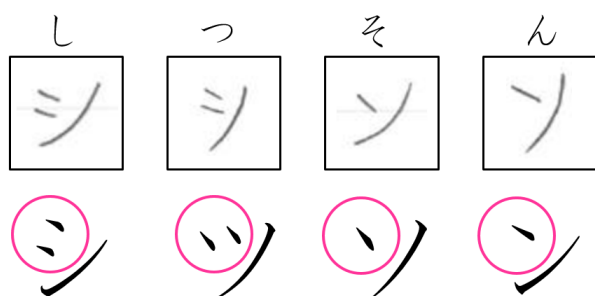
従来の文字練習テキストの多くには、お手本として活字体の文字が採用されています。しかし活字体と実際に手書きした文字とでは、その形に微妙な違いがあります。学習者はその“微妙な部分”を誇張して（実際よりも大きく書いて）しまうことが多く、それが文字の読みにくさ（エラー）となって現れることがあります。

以下はその一例です。



上はある初級学習者の書いた文字で、下はそのお手本となった活字体（教科書体）の文字です。○で囲った部分に、お手本の文字から影響を受けたと思われるエラー（不自然さ）が見られます。下のお手本の「に」「ろ」の○の部分は“始筆”といい、毛筆で書く際のできる文字の特徴です。鉛筆やペンで書くとき、日本語母語話者はあまり気に留めることはありませんが、学習者はこれを強く意識してしまい、上のように文字の形がやや不自然になってしまうことがあります。

ゼロ初級学習者の文字学習（練習）の際、毛筆を使うことはほとんどありません。多くの場合、鉛筆やボールペンを使います。そのため、文字を美しくするためのこの装飾部分（始筆）は、ゼロ初級学習者にとっては“余計なもの”となってしまいます。



そしてこちらは別の学習者が書いたカタカナです。「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」がうまく書き分けられておらず、同じ文字に見えます。これも国籍や母語を問わず多くの学習者に見られるエラーです。日本語母語話者にとっては明らかに別の文字である「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」は、ゼロ初級学習者の多くには違いを見出すことの難しい、非常に似た形の文字に見えているようです。

これらの例のように、活字体の文字をお手本にすると学習者の文字に多くのエラーを引き起こすことがあります。つまり、お手本通り丁寧に書こうとしたばかりに文字の形が不自然なもの、読みにくいものになってしまう、ということが起こります。

そこで、そっくりのそのまま形を真似ても差し支えないお手本を、ということで J-Learners' (フォント) を作成しました。

(J-Learners'の文字例)

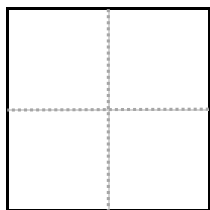
あいうえお カキクケコ

このように、始筆などの装飾部分がなく、すべての箇所では線の太さが一定のできる限りシンプルな字形のものになっています。

シ ツ ソ ン

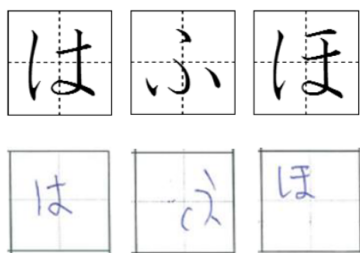
「シ」「ツ」「ソ」「ン」については、「シ」と「ツ」の1・2画目はそれぞれ水平( $0^\circ$ )と垂直( $90^\circ$ )に、「ソ」「ン」の1画目は  $60^\circ$  と水平( $90^\circ$ )としました。文字の本来的な美しさからは外れているかもしれませんが、慣れない学習者にもはっきりと違いを認識してもらえるようあえてこのように設定しました。

## 2. 新しいマスについて



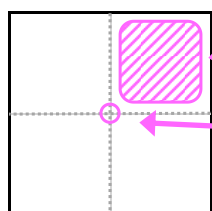
文字練習のマスといえば日本語教育でも日本の小学校でも、このような正方形を十字の線で4分割したものが一般的です。しかしこのマスは文字をきれいに書く手助けになっているかとの疑問がありました。

た。



上はある初級学習者の書いた文字で、お手本の文字と比べて文字が小さく、また文字の位置がマスを中心から大きく外れています。これは他の多くの学習者にも見られ、特に極端な例というわけではありません。学習者がこのマスに慣れていないから、ということもあるでしょうが、それよりもこの4分割のマス自体が学習者にとって最適なものとは言えないからではないかと考えました。

マスが4分割されているのは、文字を書きやすくするため、きれいに書くため、です。マスの中の十字の線には文字を書く際の座標（目印）の役割があります。しかしこの十字の線は座標として十分に機能していないのではないかと。その理由は次の2点です。

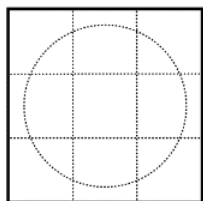


① 分割された1つの領域が広すぎる。

② マスの中に線がタテとヨコの1本ずつ（計2本）だけで、交点为中心の1点しかない。

このため、文字の画がどこから始まりどこで終わるのか、その他の画との関係はどうかなどがあいまいになります（例えば経線と緯線の粗い地図の上では位置（場所）が難しいように）。

そこで、下のようなマスを作成し、J-Learners'（フォント）に採用しました。



正方形を9分割にし、中心に円を入れたものです。ガイド線をタテヨコ2本ずつ（交点は4つ）にしたことで座標としての精度が高くなります。そのため、学習者はマスの中のどの位置から書き始め、その線をどこまで伸ばすのかがわかりやすくなります。

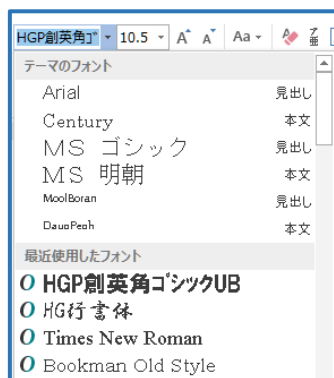


そして文字を円いっぱい広がるように配置しました。こうすることで、マスの中での文字の位置を把握しやすくなり、円の中に書くので自然に文字のバランスを取れるようになります。また、複数の文字を書いた際、各文字の大きさが揃うようになります。

従来の4分割のマスとこの9分割に円のマスそれぞれで初級学習者に書き練習をしてもらい、その結果を点数化して比較する調査を行ったところ、9分割マスの方が文字のバランスと美しさで優れているとの結果が得られました。

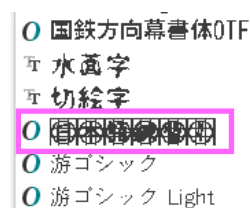
### 3. フォントの名称について

当初考えていたこのフォントの名称は「日本語練習」、または「にほんごれんしゅう」でした。しかしすぐにこの2つが良くないことに気づきました。

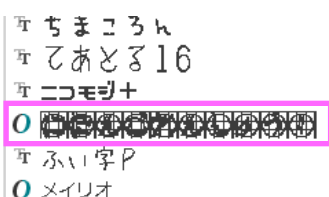


Word や Excel では、画面上部のメニューからフォントの種類を選ぶことができます。フォントを別のものに変えるときは、フォントの欄にある下向きの三角(▼)をクリックして、そこに表示されるフォントを選ぶ、ということになります。このとき、このように画面にフォントの名前が表示されます。そして表示される字体は、そのフォントです。つまり、「○○明朝」という名称は「○○明朝」の字体で、「××ゴシック」は「××ゴシック (体)」で表示されます。

そのため、新しく作ったフォントの名称を、当初考えていた「日本語練習」や「にほんごれんしゅう」にすると、下のように文字が黒くつぶれて読み取れなくなっていました。これは、フォント自体に文字だけでなく文字を囲むマスや筆順の数字などが含まれてしまっているから起こったことでした。



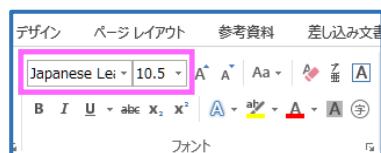
「日本語練習 1」



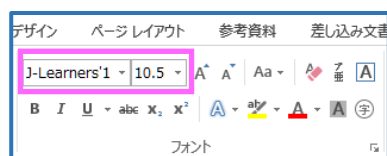
「にほんごれんしゅう 1」

そのため新しいフォントの名称には、文字にマスや筆順の数字が入っていない英数半角文字を使うことにしました。そこで三種類あるフォントの名前を「J-Learners'1」に改めました。

しかし、そうするとまた別の問題が起こりました。



「J-Learners'」という名前は長すぎて、メニューのフォント欄に入りきりませんでした。新しいフォントは1・2・3の三種類があるのですが、名前が最後まで見えないので、いま選ばれているフォントが1から3のどれであるのかが一目見ただけではわからない、ということになってしまいました。そこで「J-Learners'」の名称を短くして、「J-Learners」としました。



こうすることで、一目で1から3のどれを選択しているのかがわかるようになりました。

こうやって書いてしまうと自然の成り行きのように決まったフォントの名称ですが、全くの手さぐりから始めたフォント作りでしたので、最初に「日本語練習」や「にほんごれんしゅう」と考えてから「J-Learners'」に至るまでに何か月もかかりました。

#### 4. このサイトについて

最初に思い立ったのは“フォントの作成”でした。

外国にいるとき、学習者の書く文字を見ていて、お手本にある問題に気づき、それに代わる良いものはないかとネットをあれこれ検索しました。しかしこれというものを見つけることはできませんでした。それならば自作してみようと思ったのですが、そのときはどうやって作ればいいのかかわからず、日本に帰国した際に電機店のPCソフトのコーナーでフォント作成ソフトを探したりもしましたが見つからず、ずっとそのままになっていました。

その後、大学院（修士課程）に進むことになりました。入学試験のとき研究計画書で提出したテーマは、入学後の最初のゼミの授業で「これは修士課程の2年で終わらせるには大きすぎる」ということで見送りになりました。それから毎週、担当の先生とテーマについて話し合っていたのですが、ずっと決まらず、候補ばかりが溜まっていっていました。最初の夏休み前、そろそろテーマを決めようということで、これまで一度も出ていなかった「お手本のフォント」について話したところ、「それで行ってみよう」ということになり、フォント作りを始めることになりました。

しかし、やはりどうやってフォントを作ればいいのか、どんなソフトを使えばいいのかかわからず、そのまま時間が過ぎていきました。ようやくこうすればいいんじゃないかとわかってきたのは1年目の冬にさしかかった頃でした。そこから試行錯誤しながら少しずつフォント作成に取り掛かりました。そして修士論文執筆と並行してフォント作りを続けました。

私が最初に本格的に日本語教育に携わったのは、JICA 海外協力隊(平成23年度1次隊)(JICA Overseas Cooperation Volunteer / 23-1)でのウズベキスタン・サマルカンドの外国語大学への派遣でした。そこには大勢の熱心な日本語学習者がいましたが、日本から遠く離れ、新しいテキスト1つを手に入れるのも大変なところで、クラスで使うためのコピー用紙やチョークなども教師が自費で購入することもありました。申請していたテキストの詰まった段ボールが日本から届いたときの感激とそのときの教室の様子はいまでも忘れません。

ひらがな・カタカナなどの文字練習テキストは、一度使った後、書いた文字を消しゴムで消して繰り返し

返し使うということはまずなく、使い捨てのような形になってしまいます。しかし（協力隊員の行くような）日本から遠く離れた教室では、新しいテキストを学習者一人ひとりに配布することはとても叶いません。そのようなクラスは世界中に多数存在します。J-Learners'（フォント）を作ったのには、そのような環境でこそ使ってほしいという思いがありました。

この教材（フォント）を作れば、そんな教室でも簡単にテキストを作れるのではないか、ある時期まではそう思っていました。しかし、作成したフォントでテキストを作り、実際に現場で使ってみて、事はそう簡単ではないことに気がつきました。このフォントがあっただけで文字練習のテキストがすぐに作れるわけではない、それだけでは不十分ではないかと思うようになりました。そこで、このサイトを開くことにしました。

このサイトは主なエンドユーザーとして、日本から遠く離れた国の地方都市にあるクラスの現地人の、教師になってまだ経験があまり長いとはいえない方々を想定しました。そのため、サイトを作るときの基本コンセプトとして、できるだけ使いやすくシンプルなものにということを心がけました。

このような目的も含んだサイトであるため、機能が少なく不便さを感じることもあるかもしれませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。